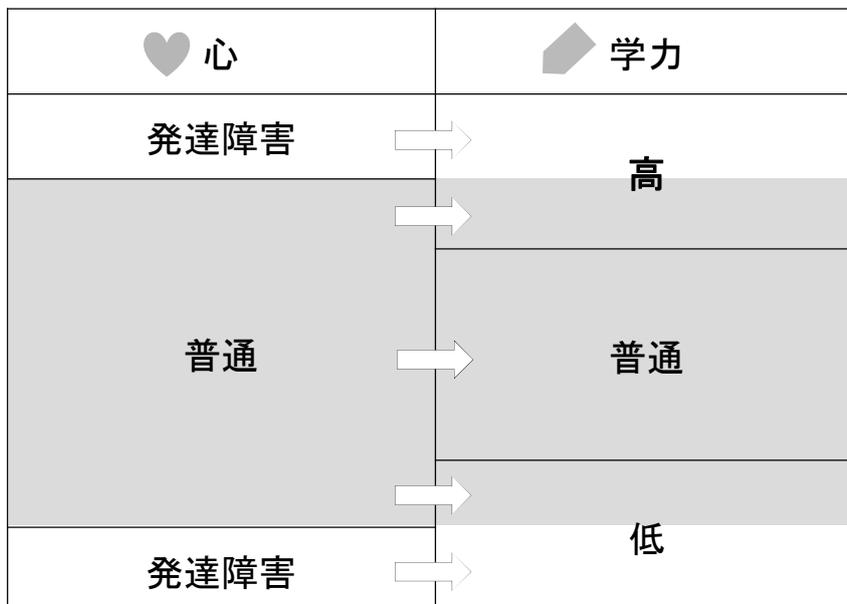
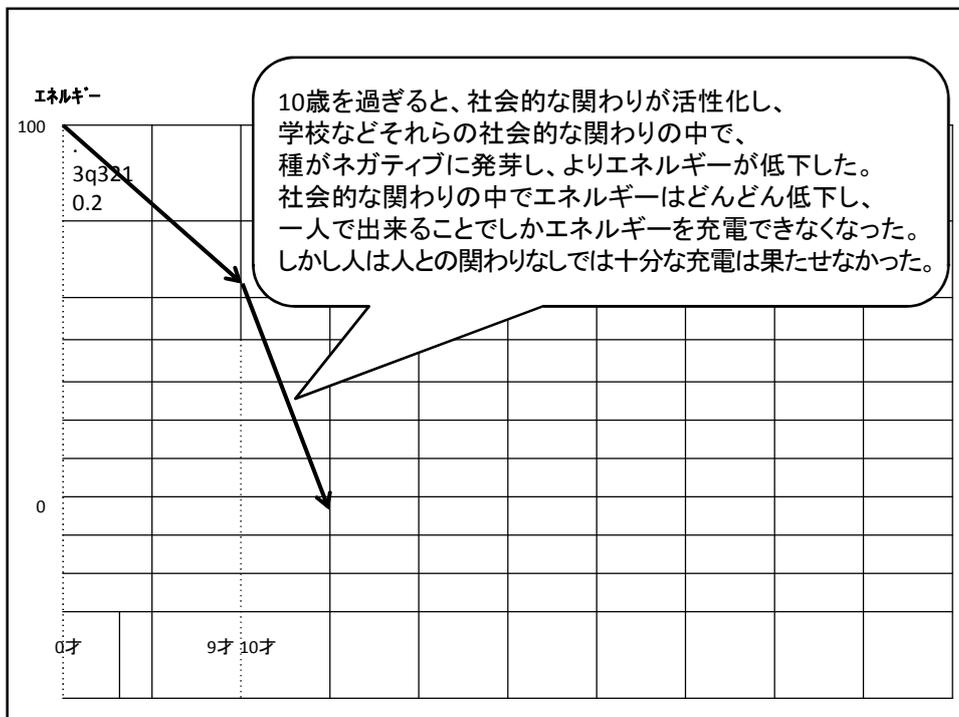
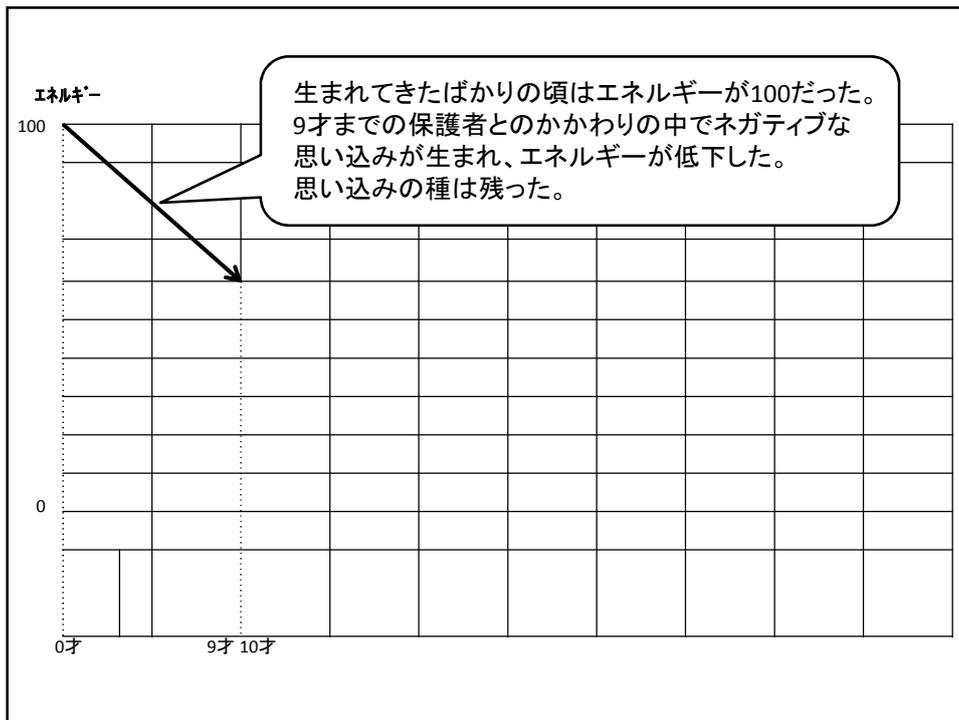


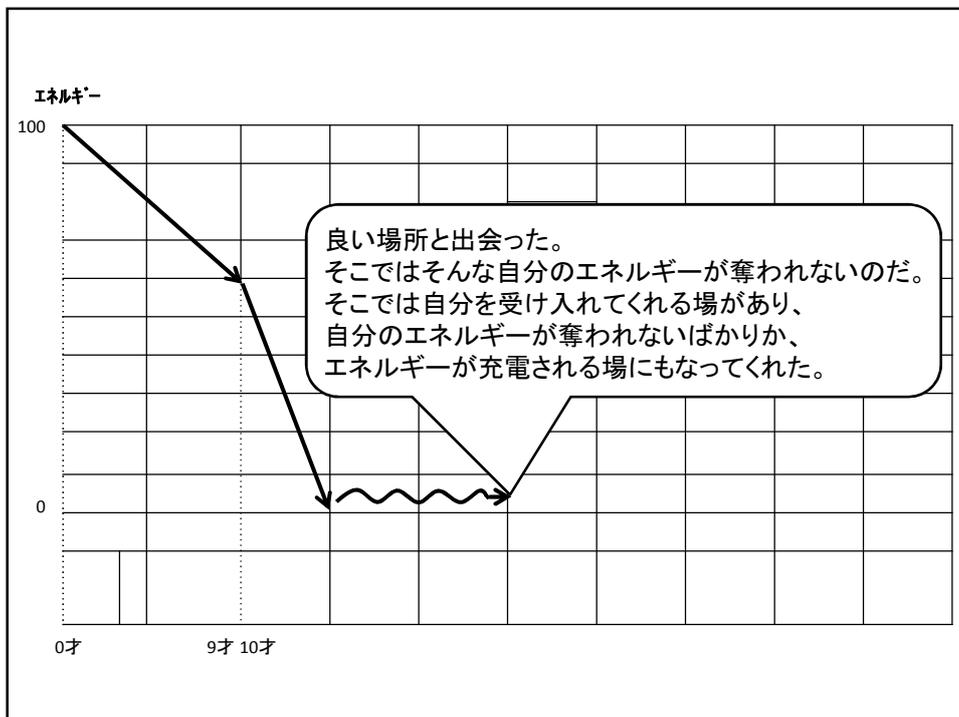
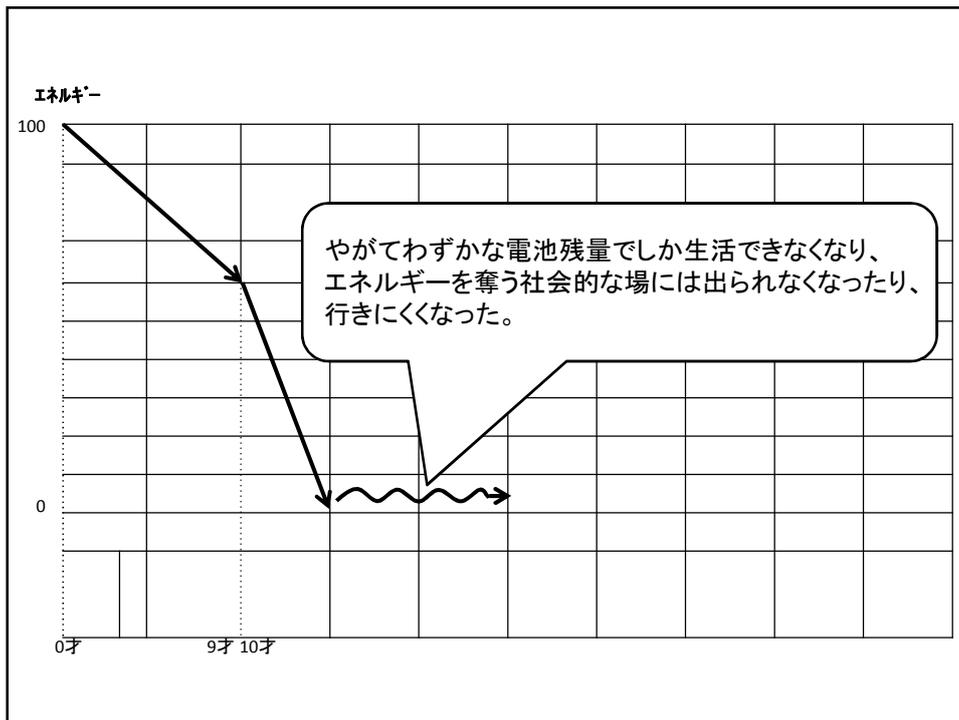
不登校に関する調査研究協力者会議

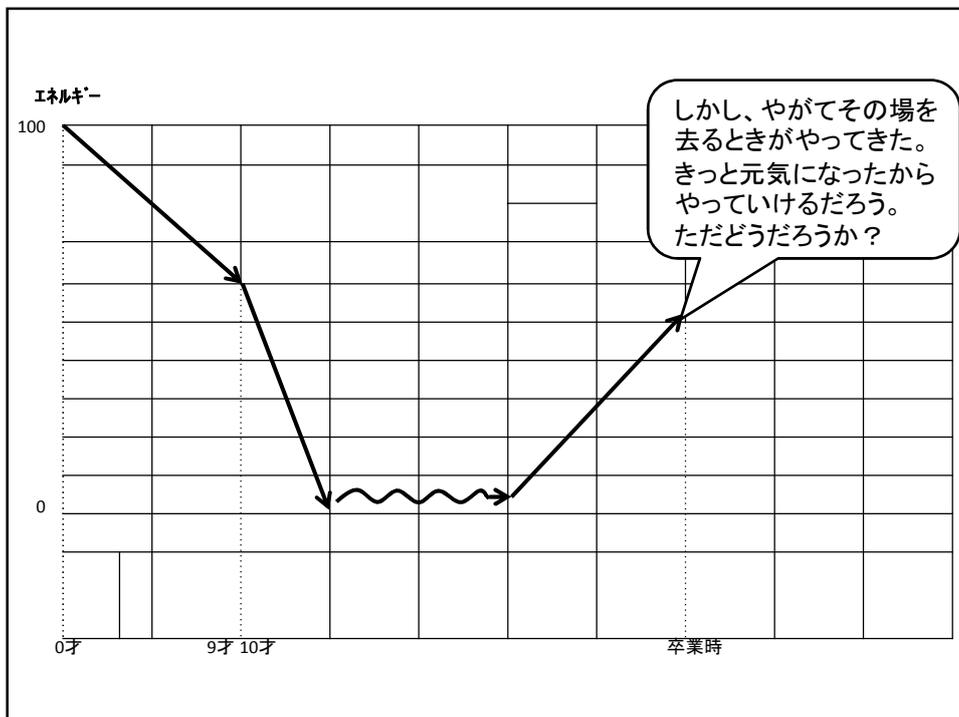
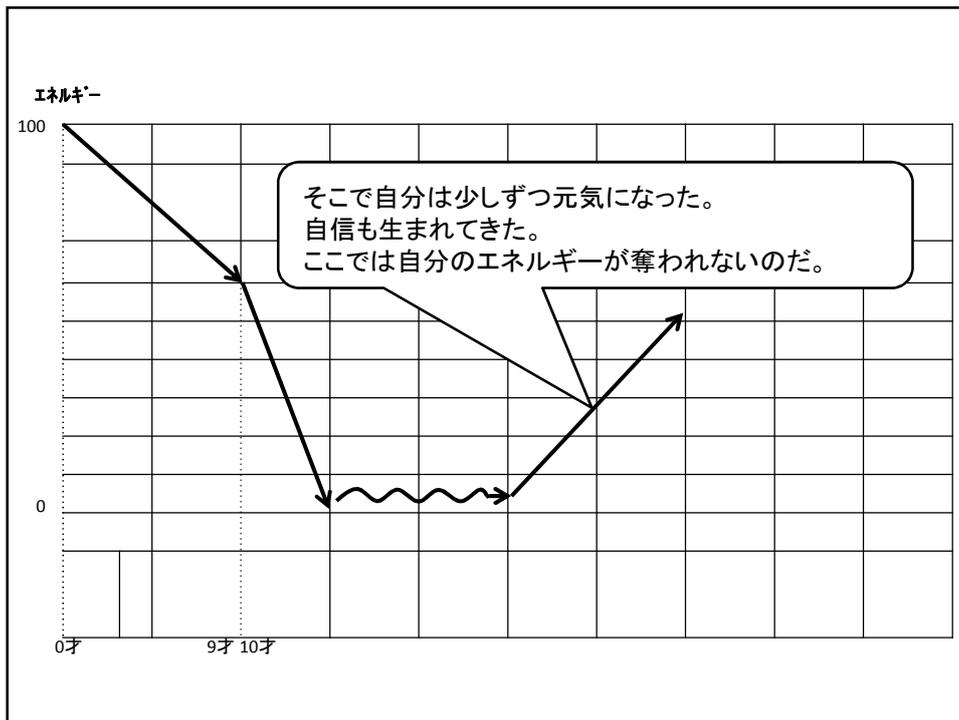
安藤 大作

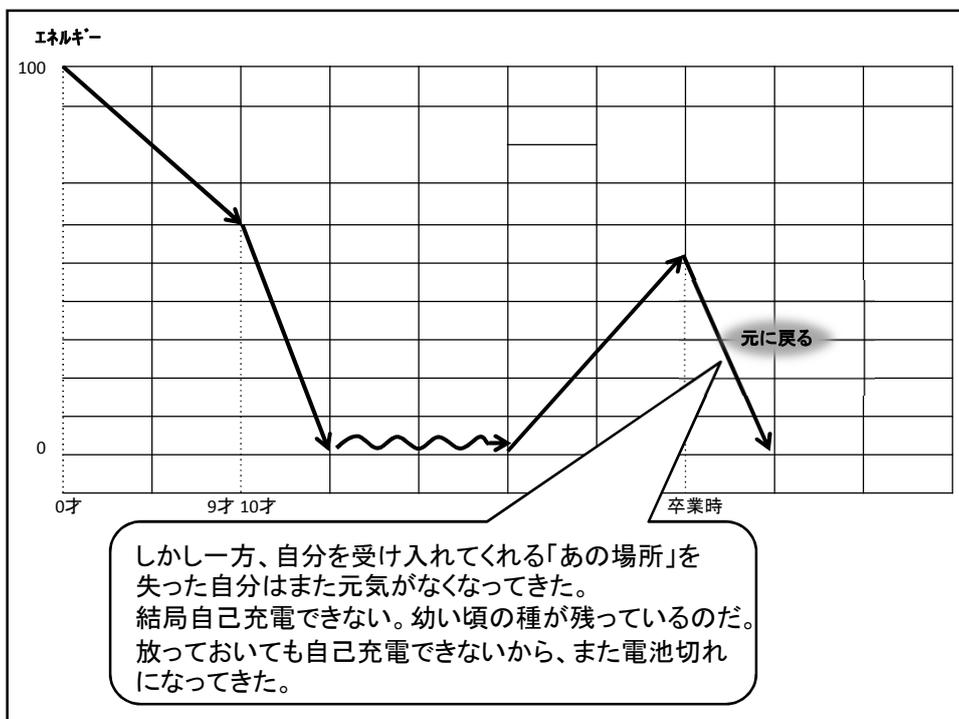
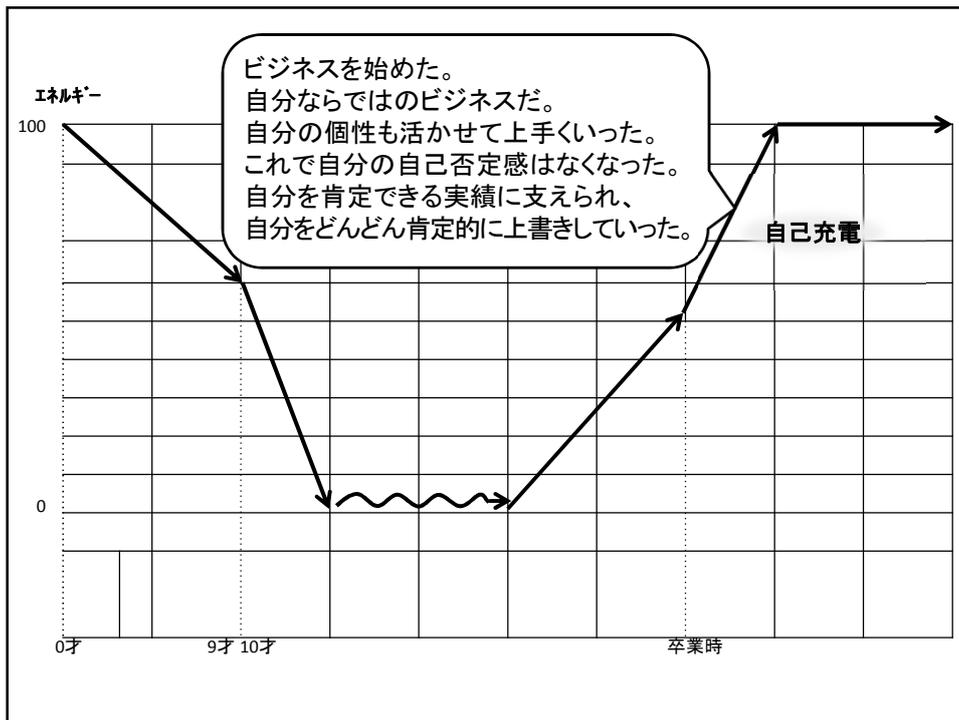
(公社)日本PTA全国協議会 相談役

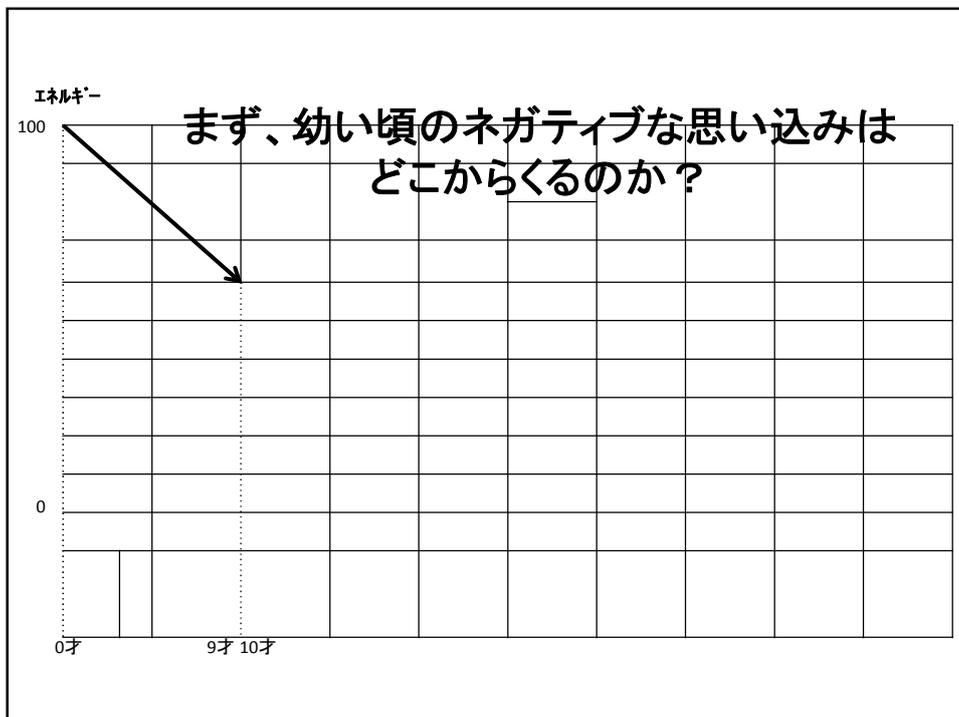
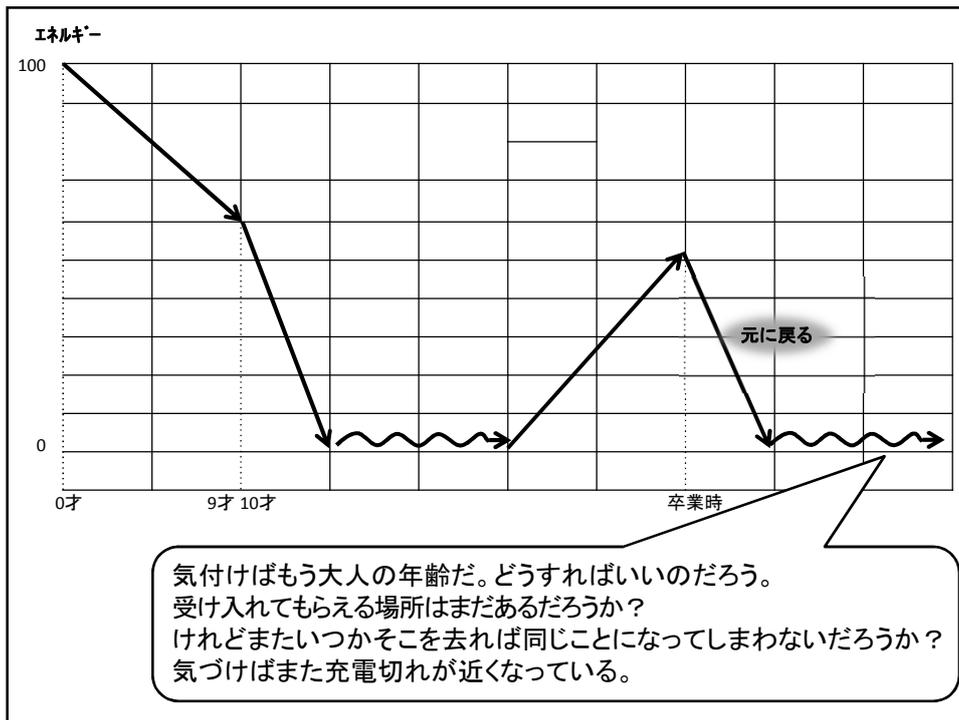


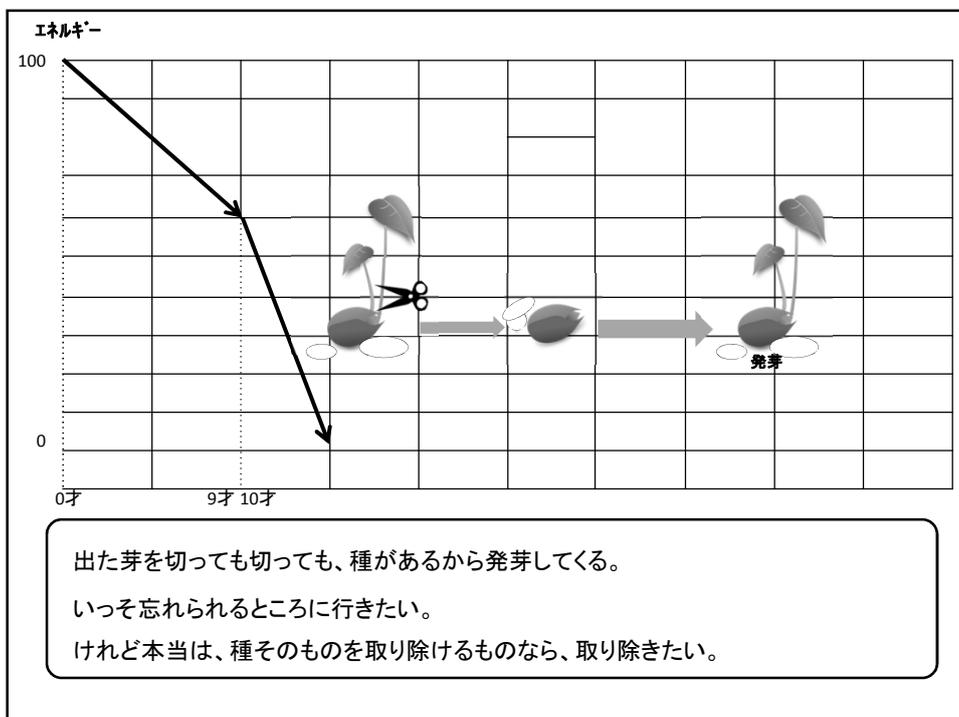
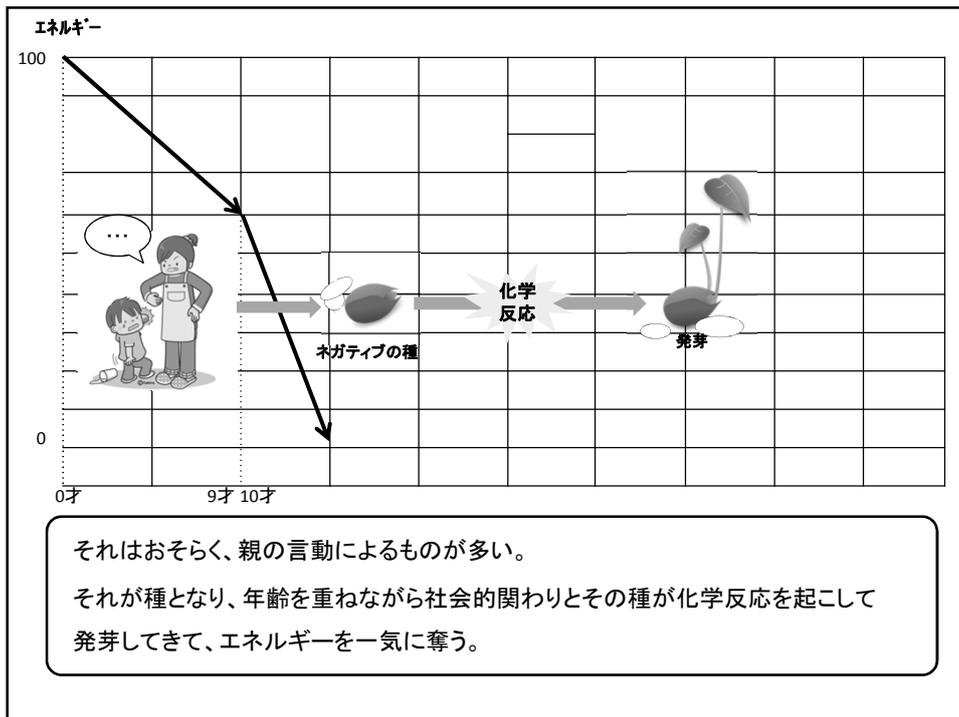












種の取り除き方

親に本音で話す。ぶつかる。
伝わらなくてもぶつかる。

「お母さん、俺本当は寂しかった！
嫌われていると思っていた！なぜかって・・・」

「お父さん、俺〇〇歳のとき、お父さんに〇〇って
言われてから本当はずっと落ち込んでる・・・」

種の取り除き方

大人である親は、大人の言うことで変化はしないが、
大人である親は、わが子の心の叫びでこそ変化し始める

親が親になっていく。

子供ばかりを変えるのではなく、
子供を通して親も変わらないといけない場合もある。

種が取り除かれる時

「ごめんね・・・お母さんはその頃〇〇だった。
だからそんな思いをさせてしまったね。ごめんね。
でもお母さんは本当にお前のごこと大好きで愛しているんだよ。
でもそんな思いをさせてしまったね。ごめんね。」

「ごめんな。お父さんその時、自分の事でイライラしている
時だったかもな。お前には関係ないのにな。
でもお父さんは本当はお前のごこと〇〇だと思っているんだ。
自慢の息子なんだよ。」

種が取り除かれる時

大人である親も、すまない時はすまないと謝る。

謝り、寄り添う。それだけでも子供の心は溶ける。

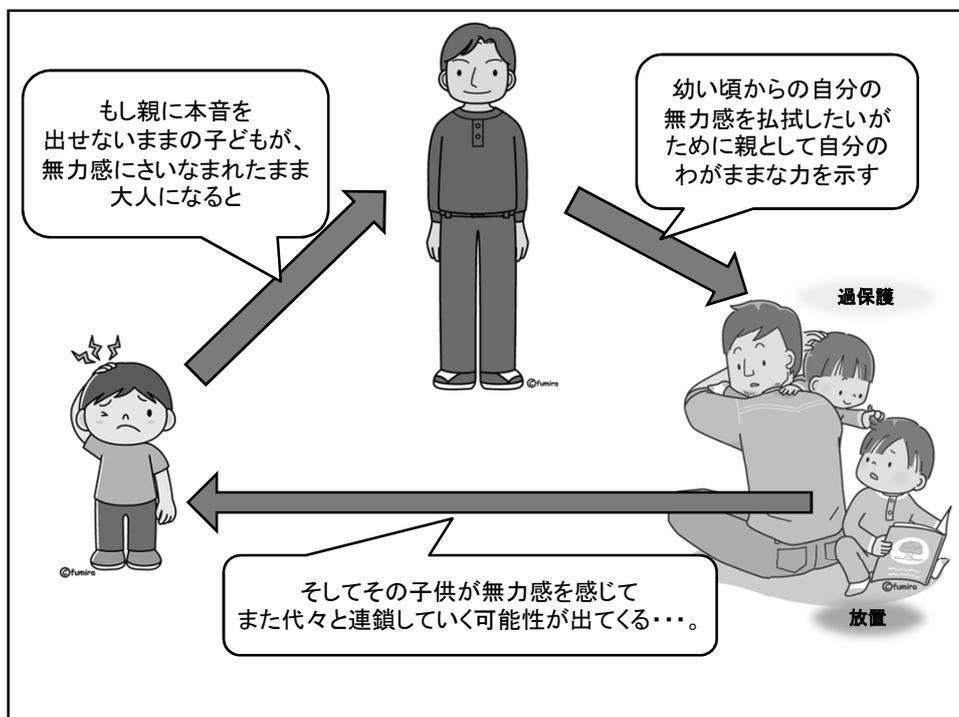
ただ、親である大人は、「謝る」という

シンプルなことが、なかなかできない。

もしも、その子が自分の「思い込みの種」を
どこか意識できているならば、
親の一言が一生分の充電にも成りうる。
そのことでその子が再び充電切れを起こすことはない。

そのためにはまず、
子供が自分の心を見つめ直す。
「そもそも自分はいったい何に傷ついているのか・・・？」
それを意識出来てきたら、親に向き合っていく。
そうすれば原因の種が取り除かれ、
真の解決に繋がりは始める。

親はわが子によって親になるという。
それは子供の本音が親を親にしてくれる。
子供は大好きな親の子供であり続けたいから、
大好きな親に親であってほしい。
だから自分の親に親であり続けてもらうための宿題を出す。
でも宿題の正しい出し方が分からない。
本音で親に言うことを一番求められていることなのだけれど、
それが分からず悶々としてしまう。



私たちはどうすればいいのか？

①

「幾つになっても親に本音で話すことで成長できる」文化
をサブカルチャーで浸透させていく。

(文部科学省推薦など)



映画



音楽



アニメ



テレビ

②

「早寝早起き朝ごはん」
のような運動で浸透させていく。



早寝

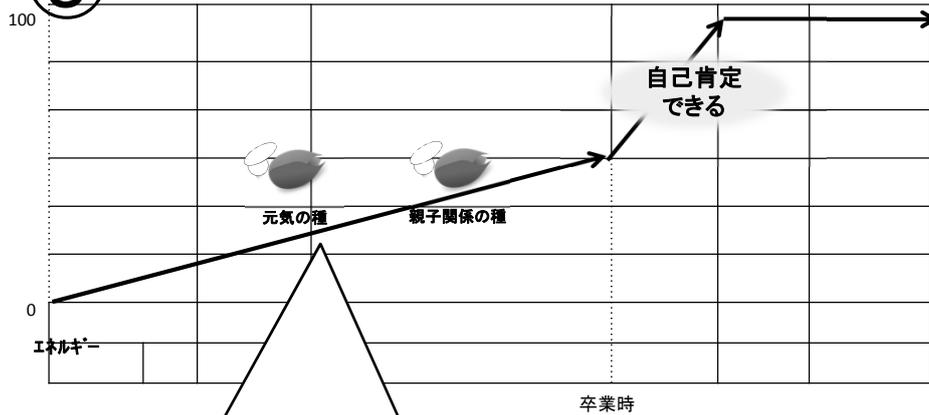


早起き



朝ごはん

③



元気になれる場所で充電が出来ている間に、
卒業後の元気の種を植えるのと並行して、
親子関係の種を取る指導を入れていく